



CEReS

Newsletter No. 130

Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング研究センター ニュースレター 2016年9月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：本郷千春)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/>

■■■ 第10回 VL 講習会開催 (9月20日～21日) ■■■

平成28年9月20、21日の二日間、第10回「地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成」講習会を当校にて開催致しました。「地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成」は、文部科学省・特別教育研究経費により平成19年度から開始され、東北大学大気海洋変動観測研究センター、千葉大学環境リモートセンシング研究センター、東京大学気候システム研究センター(現大気海洋研究所)、名古屋大学地球水循環研究センター(現宇宙地球環境研究所)の共同プロジェクトとして、4大学センターが協力してバーチャルラボラトリー(VL)を形成し、各センターの研究資産を活かした研究・教育を行っています。VL活動の一環として、大学院生や若手研究者を対象に連携研究を促進するための講習会を毎年実施しており、本年は千葉大学が3回目の主幹校となって講習会を主催しました。

今回は「日本の地球観測衛星を知ろう」というテーマに基づき、ひまわり8号データ解析の演習とともに、現在最前線で活躍中の講師の方々に講演していただきました。タイトルは以下の通りです。

- 地球観測衛星による計測、衛星データ概要、ひまわり8号が捉えた各種現象の解説
樋口篤志 千葉大学 CEReS 准教授
- 雲を透過し大地を精密検査！「だいち2号」合成開口レーダ (ALOS-2/PALSAR-2)の概要
本岡毅 JAXA EORC 研究開発員
- 大気と陸を繋ぐ炭素循環研究！温室効果ガス観測技術衛星 (GOSAT/GOSAT-2) の目指すもの
今須良一 東京大学 大気海洋研究所 准教授
- “水”に関する微細な電磁波を大型回転アンテナで捉えよ！水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W/AMSR2) の概要
前田崇 JAXA EORC 研究開発員
- 光と電波で雲・エアロゾルを輪切りにする！雲エアロゾル放射ミッション (EarthCARE/CPR) の概要
岡本創 九州大学 応用力学研究所 副所長/教授
- 2周波電波で雨・雪を3次元スキャン！全球降水観測計画/二周波降水レーダ(GPM/DPR)及び全球降水マップ(GSMaP)の概要
久保田拓志 JAXA EORC 主任研究開発員

また、参加者の対象を研究室配属前の学部生にまで引き下げ、早い段階からリモセン分野への関心を高めてもらうというねらいもありました。台風16号が接近して天候が悪い中、53名の参加があり、そのうち学部生は29人でした。

コンピュータ演習は眞子特任助教と豊嶋特任研究員が中心になって、Webベースの解析ツールを使ってひまわり8号の衛星データ処理を行い、作成された画像や動画から気候変動の観察を体験してもらい

ました。衛星データを取り扱ったことのない参加者にとっても関心を高められるようなグラフィカルなインターフェースを作成し、演習を行って頂きました。アンケートによると、講演は概ね「適切」と回答する方が多く、学部生には「やや難しい」と感じる方もいたようです。関心を持った講演・衛星に関しては、ひまわり 8号と GPM を選ぶ方が多数でした。演習についての難易度は、学部生にとっては「適切」～「やや難しい」という回答であった一方、大学院生は「やや簡単」と「やや難しい」に二分されました。衛星データの取り扱いに慣れた方には簡単で、他分野からの参加者や初めて衛星データを扱う方にとってはやや難しく感じられたようです。演習を進める速度は全体を通して「やや速い」という回答が多かったものの、今後の研究には（大いに）役立つと答えてくださいました。また学部生を対象に「今後衛星を使った研究をしてゆきたいか」という質問をしたところ「思う」と答える方が多数でした。2日間という短い時間で、“盛りだくさん”な内容でしたが、参加者には概ね満足していただける講習会となったのではないかと思います。

演習後には付属図書館設置の、大型ひまわりディスプレイの見学を行いました。なるべくオリジナルに近い解像度でリアルタイムの画像を動画で映し出す様子を、参加者は熱心に見入っていました。

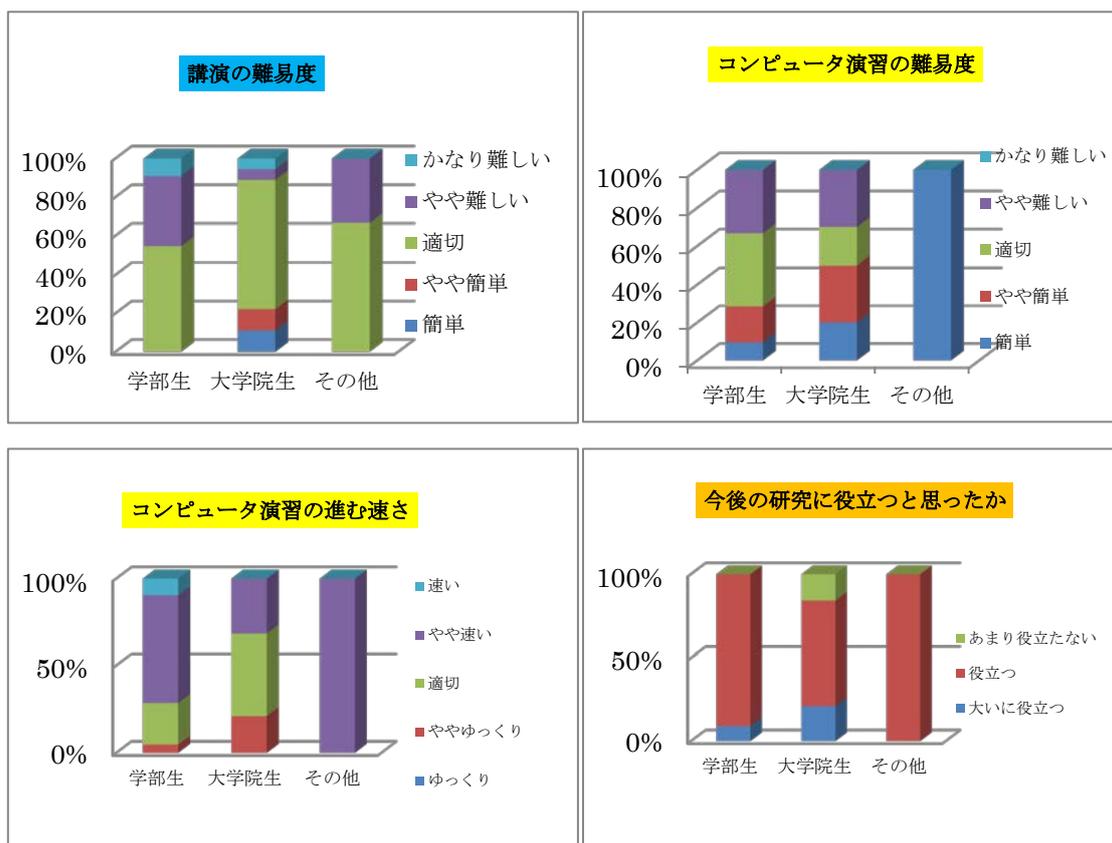
初日の夕方はけやき会館内レストラン「コルザ」にて、情報交換会を開催しました。普段はあまり会う機会のない他大学の学生・研究者との交流の場となり、特に学部生にとってはいい刺激となったようです。VL協議会から合流してくださった先生方との活発な情報交換が行われました。

今回の講習会では、松原さん、伊藤さんをはじめとした事務スタッフに参加者出張手続きや諸々の準備を担当していただきました。また、久世・齋藤研、樋口研、本郷研、入江研の学生には演習チューターとして、また会場案内や演習資料作成のための予行練習にも協力して頂きました。この場をお借りして関係者の皆様にお礼申し上げたいと思います。

(文責：豊嶋・眞子・岡本)



講習会の様子



アンケート結果（回答数 学部生：22、大学院生：19、その他：3）

■■■■■ ひまわり 8号タイアップ企画連載終了 ■■■■■

昨年10月より、毎週金曜日に毎日新聞朝刊「くらしナビ、気象・防災」欄にて“ひまわり EYE”シリーズが連載されました。その3か月前の7月に気象庁による世界最高水準の能力を持つ「ひまわり 8号」の運用が始まったのを受けて、毎日新聞、情報通信研究機構（NICT）、当センターとの共同で地球と大気の現象をひまわり画像で紹介してきたこの企画も、9月23日付の第50回が最終回となりました。この間、画像提供も十数回におよび、また関する解説記事も担当しました。第1回からの画像は、NICTサイエンスクラウド [“ひまわり EYE”のページ](#) よりご覧いただけます。

- 毎日新聞 2015年10月16日朝刊“[ひまわり EYE 森林火災 煙と雲識別](#)”（画像左）
ひまわり 8号カラー画像提供および解説／豊嶋特任研究員
- 毎日新聞 2016年1月15日朝刊“[ひまわり EYE 今年の元旦、視界良好](#)”（画像中央）
エアロゾル・SKYNET 関係を絡めた話／入江准教授
- 毎日新聞 2016年9月23日朝刊“[ひまわり EYE 植生研究に「答え」](#)”（画像右）
高頻度観測のひまわり 8号に陸上の植生を観測対象とする研究者からも熱視線／梶原講師

